

# 朝鮮通信使 交流を紹介

静岡

## 徳川みらい学会 法大講師が講演

徳川時代の歴史的意義を研究・発信する「徳川みらい学会」は19日、本年度第2回講演会を静岡市駿河区の県男女共同参画センター「あざれあ」で開いた。韓国・ソウル生まれで日韓交流などを研究する法政大の魏聖銓講師が登壇し、「静岡と朝鮮通信使の一考察」と題して講演した。魏講師は朝鮮通信使と日本人の筆談の様子が描かれた絵などが残り、朝鮮通信使遺跡にも指定されている静岡

市清水区の清見寺を紹介した。自身のフィールドワークとして、全国各地の文化施設や寺院に朝鮮通信使の人形を寄贈する活動も写真を交えて報告した。魏講師は日韓関係について「互いに尊重する心を忘れなければ必ず好転する」とし、「日本語での表記が『日韓』でも韓国語に訳す時は『韓日』とするなど、言葉で表現する時には配慮が大切」だと強調した。



講演する魏聖銓講師。19日午後、静岡市駿河区の県男女共同参画センター「あざれあ」

(社会部・石岡美来)